山形県民教連通信

http://www.asahi-net.or.jp/~gy6e-kjm/　2019.05.25　No.66

Contents

巻頭言「冬の学習会を終えて」…1
県民教連「冬の学習会」に参加して…2
講演…2　生活指導…3　特別支援…4
算数・数学…5　社会…5　国語・作文…5
理科・生活…6　感想文より…7
随想「飲水思源」…8

山形県民間教育研究団体連絡協議会　通信
＜発行人＞ 山形県民教連事務局
〒990-0044 山形市木の実町12-37
県教組山形地区支部内
TEL/FAX 023-631-2112/2126
E-mail yamagata@yamagata-kenkyouso.gr.jp
＜編集人＞ 鬼島 悦雄 kijima@e.email.ne.jp

巻頭言

冬の学習会を終えて

県民教連会長
早坂　久佳

今の政治は、安倍政権による憲法改悪が目論まれている中、教育基本法の改悪を先行し、医療、介護、年金の改悪にとどまらず、農業、漁業の解体につながる法制化など弱者を苦しめる方向へ進行している。さらには、国の言うことを聞かない沖縄に対する執拗な攻撃など、主権者であるはずの国民が様々な場面で多くの困難に直面している。それらは施策そのものが大企業やアメリカの言いなりで、法人税を減税し消費税を増税、福祉を削って軍備に回すなど当然そのしわ寄せが国民に向けられている。この民主主義の破壊とも言えるやりたい放題のおごりは、ここに来てようやく『改ざん』や『ごまかし』、『嘘』で固めたメッキがぼろぼろと剥がれ、本質が暴かれようとしている。

そんな中での教職員に対する裁量労働時間制は、今回冬の学習会の内田良氏の講演の中で、働き方改革にならないばかりか「金をかけず長時間を正当化し、休める保障のない危険な制度」になるだろうということがはっきりとした。また、内田良氏の数字を使って見せる資料と理路整然とした説明により教育現場で問題になっていることが次々と明らかになった。ただ反対するという結論ではなく制度設計の必要性や持続可能な方策こそが今こそ求められていることが良く理解できた。それはどれも、子ども達の命を守る最低限すべき当たり前のことであり、今までのやり方のリスクを数字で明らかにしてくれるものだった。

私達教職員が、『○○スタンダード』のように「今のトレンディーだから。」とか、みんながやっているからやってしまう集団心理の恐ろしさを改めて感じ、ノーベル生理学・医学賞を受賞した本庶佑氏の発言を思い出す。「どれも疑ってみる。」という名言は、疑って「考えて」自分で「判断する」ことが大事ということである。

第68回 東北民教研「花巻集会」に参加しよう！

■日 時　2019年 8月 9日(金)～11日(日)　■会 場　岩手県花巻温泉 千秋閣 他
○講演「生活のなかで子どもを理解し、子どもとともに育つ教師に」
講師　福井　雅英　さん（滋賀県立大学）
○各教科の分科会
○特別分科会、他
※　詳しくは、６月下旬発送の集会案内をご覧ください。

今回の学習指導要領改訂の中身は、教育基本法がもとになり政治的な圧力の中で露骨に右傾化し、人材教育のための競争主義を取り入れたものである。「教育は政治的な圧力に屈してはならない」とする憲法に反しており、教育基本法を元に戻す以外改善はない。

今集会は、いつもの山形地区支部との共催ということだけでなく 講演を一つの闘いの準備として位置付けてくれたことだ。そのために４０分会からの参加者も含め９０名の集会にすることができた。労働(団体)協約締結権を奪われている公務員にとって、働き方を自分たちで決められず上から降ろされようとする理不尽さは、安倍一次内閣での教員免許更新制で味わっている。タイムカードを各職場に設置し、その実態から必要な人の配置や振替が確実に行える日数が割り出されるのであって、金をかけない変形労働時間制だけだったら破綻するだろう。そして、いい学校をつくるヒントをこの講演で得た教職員が職場で仲間に伝え、さらに拡散していくことを大いに期待したい。

分科会では、講演の前に国語と理科の分科会によるワークショップ的な講座を今回開設した。ここ数年学校では、学力テスト対策に追われ教科の授業そのものがないがしろになってきている。そのためか読み取りの授業や作文指導、子どもが夢中になる実験や観察等の分科会に集まる人が激減していた。若い人にもベテランにも、基礎を学び子どもの笑顔が見える授業づくりの大切さを味合うことができたように思う。

残り４つの分科会は、講演後に従来通りレポート分析による学習会を行った。算数数学分科会に誘った２人の教師から「学級が落ち着かないので生活指導分科会に行くことにした。」と言う声が聞かれた。今学校で子ども達に何が起きているか、学力テスト体制や探究学習、授業時数増によるものなのか、注視していく必要がある。

県民教連「冬の学習会」(1/19 ヒルズサンピア)に参加して

講演
「子どもと教師を苦しめる『教育リスク』に向き合う」

― 部活動改革から
働き方改革まで ―

内田　良 先生

名古屋大学大学院
教育発達科学研究科准教授

１．はじめに先生から

専門分野は、教育社会学で、数々の学校リスクについて研究しています。例えば、スポーツ系の部活に顕著ですが、近年の部活動における事故は、教育問題であり、事故によって亡くなってしまうこともままあります。そうした、たくさんの事例や資料によるエビデンス（科学的根拠）をもとにして、その原因や予防、対策などを研究しているのです。

髪の毛を金色に染めています。これは、「大学准教授」で教育の専門家、黒髪で難しい話をしたら、みんな「正しい」と思い込む。何だかうさん臭いけど、大丈夫か？と疑いながら聞いてほしいんです。

２．　変わり始めている社会

今年１月の、高体連の全国研究大会に招かれました。スポーツ界の本丸と言ってもよい高体連に、部活動改革、働き方改革を主張する私が招かれるということは、それだけ、スポーツ界のトップ、指導陣も、部活動のあり方や働き方に、問題を感じている、どうにかしなければいけないというところまで来ていると思います。

学校柔道で、過去３１年間（１９８３年～２０１３年）に１１８件の中高生の死亡事故がありました。一つ一つの事故の原因をしっかり検証していれば、こんなにならなかったのです。一つ一つの事例を見捨ててきたから、事故が繰り返されてきたのです。しかし、死亡事故のデータをもとに、予防や対処法が明らかになって、全日本柔道連盟が安全対策に乗り出してからは、重大事故は一気に減少しています。

また、負傷事故で有名になってきた組み体操も、全国的に問題化されてから、実施校の減少以上に、負傷事故件数が減少している実態があります。安全な組み体操の仕方が生まれてきたのです。

３．「定額働かせ放題」の５０年

働き方改革関連法が通り、実施されようとしているが、法案の柱の一つが「高度プロフェショナル制度」である。労働時間と賃金の関係を切り離すこの制度は、「定額働かせ放題」であることによって、長時間労働、さらには過労死を助長しかねないと危惧している。

実は、この「定額働かせ放題」を約５０年前から取り入れている業界があります。それは、公立校の教員です。学校の先生方は、１９７１年に制定された給特法により、半世紀にわたり、残業の拡大を許して来ました。教員は、過労死が見える「危ない橋」を渡り続けており、その最悪の事態が起きてしまっているのです。

少なくとも、現時点で月１０万円の残業代の不払い状態になっていることを認識していただきたい。

４．おわりに

マスコミや市民レベルで、教員の仕事や部活動のブラック状態は認識されつつあります。また、国や行政でも対策に乗り出して来ているが、教員自体の認識はどうだろうか。職員室は、無風状態なのではないか。この、職員室がいかに変わるか、教員がいかに変わるかが、今焦点になっています。声を上げられなくても、ツイッターやフェイスブックでも発信すれば、状況は伝わっていきます。

私たちが「善きもの」と信じている「教育」は本当に安心・安全なのか？学校教育の問題は、「善さ」を追い求めることによって、その裏側に潜むリスクが忘れられてしまい、そのリスクを乗り越えたことを必要以上に「すばらしい」こととして捉えてしまうことによって起きています。教員の過重な負担、今まで見て見ぬふりをされてきた「教育リスク」を、エビデンス（科学的根拠）を用いて指摘し、子どもや先生が脅かされている教育の実態を、これからも明らかにしていきたい。ともに、頑張っていきましょう。

（文責　岩城 充）

＜分科会報告＞

生活指導

子どもと共に、豊かな学習集団をつくろう

９名の参加。

１　実践レポート報告

「初任者の挑戦（新米先生のボクの学級づくり奮闘記）～学校に通う「楽しさ」から子どもたちの「協力」「自主性」の育成～」

石川さんは新採１年目。４年生２７名の担任として、「学校に来るのが楽しい学級」をめざして、学級集団づくりに取り組んでいる。石川さんの凄いところは、教員採用試験合格後、SNSで教員としての心構えや用意しておくことを見て、学級づくりの情報をたくさんもっていたことである。現在も様々な取り組みを調べているが、その中で、「ビー玉」を使った取り組みを目にし、今の学級で取り組んだ。初めは班ごとに達成したらご褒美にビー玉をもらえるやり方をしたが、班によってビー玉の数に大きな差が生じることなどから、子どもたちがミッションをクリアしたらもらえるやり方に変えるなどして学級集団としての高まりにつながっていった。

２学期からは、子どもたちの興味を引き出すために、サークル活動に取り組んだ。３人以上であれば、担任から承認してもらえればサークル活動ができる。「学習新聞サークル」「ハンドベースサークル」などができて、子どもたちは自主的な活動を通して、様々な友だちと関わる力がついて

きた。サークル活動の中には、「ゴミ拾いクリーンサークル」のように係活動に分化してはどうかという意見が出された。

３学期には、「５年生０学期」としてのめあてや取り組みを冊子にして、子どもたちに配付して取り組んでいる。４年生のまとめの取り組み（漢字や計算テストなど）がたくさん載っていた。どれもSNS等で調べたものである。若い先生たちは、SNSなどを活用して様々な実践を調べて取り組んでいる。参加者からは、１年目でこんなにたくさん取り組んでいることにびっくりしていたが、子どもたちの実態を踏まえて、取り組む内容をしぼってもいいのではないか。４年生３学期としてもっと大事にしてもいいのではというアドバイスがあった。それでも、個別指導で悩んでいる若い先生が多いのに、サークルに入って、学級集団づくりの大切さを学び、楽しく取り組んでいる先生がいることにうれしく感じた。

２　実践講座

「どの子も活躍できる学級集団づくりのポイント」

全生研研究全国委員でもある植松保信さんに、石川さんの実践を踏まえて、「班づくり」を中心に学級づくりのポイントを話していただいた。

班づくりを通して、「友情と協力を強める」ことをめざしていく。班は、①だれもが友だちと仲良くしたい、②一人一人の居場所をつくる、ことである。基礎集団としての班の役割として、①その時その時の活動や仕事・遊びなどに取り組む、②学級総会で決定した「学級の目標」や課題に対して、それぞれの班が集中して取り組むことである。そのためには、「できないことは決めないし、きめさせない」ことが大切である。班としての取り組み例として、生活規律、遊び・スポーツ的行事、文化的行事、学習面の取り組みをあげた。

また、学級集団づくりでは、リーダーづくりは欠かせない。リーダーは集団の先頭に立ってくれる子だけではなく、立場の弱い子のことも考えてくれることも大事である。そして、民主的なリーダーシップは、民主的なフォロアーシップによって育てられることを教えていただいた。

大場　理之（山形生研）

特別支援

「問題行動」の背景や「こだわり」への視点をみんなで考えよう

参加者７名

①　実践講座

「子どもの見方が変わると、行動が変わる
～ペアレントトレーニングの技法を使って～」

注意しても子どもの行動がなかなか変わらないという悩みをよく聞く。実は、注意した行動は減るどころか増えてしまうことがあるのである。注目した行動は強化されるという応用行動分析学の原理があるからだ。そこで、良い行動を増やし、悪い行動を減らすよう、ペアレントトレーニングの技法を紹介した。

ペアレントトレーニングの基本的考えは、「ほめて良い行動をふやしていく」である。そのために、良い行動を見つけるトレーニングを紹介した。また、その行動をほめるためには、ほめ方の技術も必要であるとアドバイスした。

②　事例検討

臨床発達心理士・特別支援教育士
酒井枝里子　先生

参加者から、現場で悩んでいることをお話ししてもらい、酒井先生にアドバイスをいただいた。不登校やゲーム依存など、具体的な対応の方法をアドバイスしていただき、好評だった。

漆山　美子（全障研山形）

算数・数学

子どもと教材の出会いを大切にした授業作り

３本のレポートをもとに、8人の参加者で時間いっぱい充実した話し合いができました。

■「浦ちゃんの算数教室」
荒谷小　山川　貴子

■「倍と割合は同じなの？」
北村山数教協　阿部　敏恵

■「感覚から新しい量へ」
山形数教協　早坂　久佳

身の周りにある角度や面積や速度などのいろいろな量と、子どもたちをどう出会わせるか。 それを考えるのはたいへんですが、そこに楽しさもあります。わたしたちは子どもの姿に学 びながら、指導要領の記述に振り回されずにg分の授業をつくっていきたいと思います。教 科書では全く量感のない数直線で倍を教えようとしたりしていますが、これも子どもの思考 に合っていません。サークルで自由に話し合う中から学んで力を得て、実践を積み上げてい くことを大切にしたいものです。　　山川　貴子（山形数教協）

社会科

地域の近現代史(平和・人権)に学び、社会科の教材・授業をつくろう！

上記テーマのもとに、３本の報告がなされた。参加者は６人。

①「安保法制を廃止するたたかい」（今野氏）

2016年11月から派遣された「南スーダン国連平和維持活動(PKO)」の具体的な日報の詳細から2018年11月の「日米豪掃海訓練」までの自衛隊の訓練状況をくまなく調査し、紹介している。新聞各紙やネットからの情報は、今や私たち国民に秘密裏にスピード展開している戦争法の具体的な施行そのもの。まさに、軍事訓練というより、戦争前夜の“ 本番前 ”を痛感させられる緊迫感を持った内容であった。議論としては、国際貢献の在り方と９条の関係が出された。

②「沖縄との向き合い方」（菅野氏）

米軍施設の沖縄遍在に関わり、普天間基地から辺野古への経緯をまとめ、高橋哲哉氏の講演からの「基地引き取り運動」を紹介している。安保廃棄の世論か、日米地位協定の改定を目指すべきと。沖縄県民の思いに寄り添う本土各県の見解も温度差が大きいと。

③「生徒を揺さぶる「現代社会」の実践」（田ロ）

生徒たちが主体的にテーマを選択し、資料化し、プレゼンする「PL学習」を実施した。種々の討議・評価を展開する中で、例えば「改憲」や「差別・外国人労働者受け入れ」など…今日のマスコミ「＝メディア」（安倍政権のプロパガンダ一色の？）に振り回されない自身の主張【見解】ができる「国民目線の考察力・ 判断力」の育成に努めた。

日常、憲法や政治学習が不在・未消化の中で、平和学習はますます困難になっている。もっと、私たちが多様な場面で「勇気をもって声を出し続ける」ことが大切と感じた。

田口　忠宣（山形歴教協）

＜実践講座＞

国語・作文

言葉の力を高め「考える子ども」を育てる授業・学級をつくろう！

参加者10名

１．『文学教材の読み』を通して、子どもたちに育てたい国語の力　　田川　岩城　充

これまで国語のサークル等で学んでこられた「国語科の教科内容としての系統性」についての考察をもとに、日本語のしくみを身につけ使いこ

なしていく力、大切なことを読み取る力、大切なことをしっかり書く力をつけるにはどうしたらよいかを丁寧に説明してくださいました。具体的に「土の笛（小２）」の教材分析と授業の実際の記録を見せていただきながら、読みを深める言葉の取り上げ方、発問、発問に対する子どもたちの反応など学ぶことの多い実践講座でした。

２．「文学教材の読み」をどうつくるか

東置賜　近野　享子

「走れメロス（太宰治）」「故郷（魯迅・竹内好訳）」をそれぞれに主体的な読みにつなげる学習課題づくりと授業の様子の実践報告。生徒が書いた評論文や感想文から学びの深まりが伝われば と思っての報告でした。

３．綴り方を通して心を繋いでいくこと

山形作文の会　奥山　睦子

子供たちの日記や作文が載った一枚文集が学級づくりに繋がる実践報告でした。書き綴らせること、読み合うことを通して、子ども達とまっすぐに向き合い、様々な悩みや困難を一緒に考え、子ども同士を繋いでいく取り組みが語られました。子どもは担任に伝えたいことがたくさんあります。一枚文集も一年分となるとその厚さに圧倒されました。

参加者の中には初任者・四月から教壇に立つという人もいました。「なかなか教材研究ができない。『～しました。』を繰り返す作文から脱却できない。」という悩みにいくらかでも応えられたのではないかと思います。

実践講座の持ち方として９０分間で実践報告３本は欲張りすぎました。内容と進め方については次年度の課題になると思います。

近野　享子（作文の会）

＜ワークショップ＞

理科・生活　授業や学級経営に役立つ「ものづくり」

参加者９名

失敗なく簡単にできる「スライム」と、傘袋で作る「かさぶくロケット」づくりをメインにして参加者と一緒にものづくりを楽しんだ。

スライムづくりでは、事前にプラコップに目印をつけたものを準備しておき、ホウ砂の水溶液や色水なども準備して、参加者は３つの液を順番に加えて混ぜるだけというやり方をした。多少、硬めゆるめの違いはあるが、誰も失敗しない方法として勧めている。

かさぶくロケットは、傘袋に小さな穴があって空気が漏れるという弱点があるものの、豪快に飛ばして遊ぶ楽しさがある。低学年でも簡単に作れるので、ちょっとした息抜きタイムとしてオススメである。参加者は、子どもに返って楽しんでくれたようだ。

他に、トコトコお馬、アルソミトラ（紙グライダー）、ピコピコカプセル、紙トンボ、ふわふわウイング、ふわふわ凧などの材料と見本を用意し、興味のあるものを自由に作ってもらおうと準備しておいた。結局、全部説明して体験してもらった。

普段は別の分科会で一緒になることはない方々とも（ワークショップが分科会と別時間の設定だったため）一緒に楽しむことが出来たのはとても良かった。

鬼島　悦雄（科教協山形）

＜感想文より＞

■内田先生は、中央でご活躍されている、お目にかかることもできない先生だと思っていたので、呼んでいただきありがとうございました。
　実際に、直にお話をうかがうことができ、本当に勇気づけられました。組合員として、もっと声をあげていかなければと思いました。
　エビデンスを持って、校長先生にもお話していこうと思います。それが、生徒、先生方の幸せにつながっていけばと思います。
　またお呼びいただきたいです。（山形・中学校）

■とても興味のあるお話、ありがとうございました。私は音楽を趣味で長年やっていますが、子どもたちの部活とその後について、音楽文化も同じだなと感じました。
　あまりにコンクールなどの競い合いに重点が置かれて、楽しさをどこかに忘れ去られているような気がします。ただただ残念で仕方がないです。
（一般）

■わかりやすく例えたり、数値や事例をはっきり示したりしてくださって、私でも理解できる内容だった。
　たたかい方（変形労働時間制）を教えてくださったので、おぼえておきます!!
　残業時間のことが、＝合法＝ということが、あらためてわかり、あと２、３０年このままって！？残念です。（山形・？）

■今日は参加して本当によかったです。組み体操や柔道の事故等が取り上げられるようになったきっかけを作ってくださった先生であり、子どもたちの命を守るという熱い願いを感じさせてもらいました。
　若い先生方をもっと強くお誘いすればよかったと思いました。是非、次回も内田先生のお話を聞きたいです。（山形・？）

■なんとなく働いてきたのですが、実はよく考えると、世の中的にはおかしいことがたくさんあったことに気づきました。タイムカードについても。
　たくさん知識をいただいたので、自分の命のために使いたいと思います。今日は、ありがとうございました。（村山・中学校）

■ネットで記事をよく読んでいました。内田先生の話が聞けて、とても元気づけられました。企画ありがとうございました。
　部活、週三交代制、やれたらいいなあと思います。制度設計がなされていない現実を知らされ、過熱化していくことに驚きでした。
（山形・中学校）

■ラジオやネットで考えをお聞きしていたので、講演を楽しみにしてきました。
　情に流されず、客観的に現状を分析することで、課題と改善策を整理されていて、問題がよく理解できた。ぜひ、再来を。（米沢・小学校）

■「学習することで“おかしい”と声を出せるようになる」その通りだなと思いました。知らないって、おそろしい。まず、知ることから始めないといけないと感じました。
　内田先生のお話をお聞きし、教員がいかにおかしな働き方をしているか知りました。これまで当たり前だと思ってやっていたことに、一度立ち止まり、本当に必要なことなのか考えていく必要があると思いました。（山形・小学校）

■内田先生のお話はぜひ聞いたほうが…、と職場の先生に言われ、若い先生を誘って参加しました。つい「まじめに」「がんばって」仕事をしてしまい、自分がかわらなきゃな、と思いつつ今に至っていました。参加できてよかったです。何が問題なのかを見極める視点を持ちたいと思いました。
　申し込んでいなかったのですが、分科会にも参加させていただきました。こちらにも若い人が参加してほしいと思いましたが、私も初めての参加なので…。（中学校）

■今まで考えてこなかったような視点からの話を聞いて、いろいろ考えるところがありました。まず、現場から出来ることは何なのか、改めて考えてみたいと思いました。具体的な改革の事例など聞けるとなおありがたいので、また機会があればそのようなお話も聞いてみたいです。
（山形・中学校）

■制度設計のあいまいさと、現実の学校運営のギャップについて、改めてよくわかりました。大変勉強になりました。ありがとうございます。
（山形・中学校）

～随想～

飲水思源

高橋　栄二

私の卒業した小学校、今では廃校になっている白鷹町立十王小学校で、１９５０年代に女性教諭が壇上で出産するという出来事があった。敢えて出来事と書き、事件と書かなかった理由は、当時は出産間際まで働くことが普通であったからです。新婦人新聞２０１９年３月1日号の「聞き書き母の歴史」で、舞台女優の阿部百合子さんが次のように書いておられた。

「…子どもは実家に預けぱなしで、母と兄嫁が育てたようなものです。当時は冷凍庫が なくて、おっぱいが出ても、ＮＨＫのトイレで絞って捨てるしかなくて、…切なかったですよ。」

昔、用務員室で隠れるようにして授乳していた女性教諭の姿を見たことがある。勤務する学校近くに住んでいる女性はそのようにして授乳できたが、勤務先が遠い人は、それが出来ずに退職せざるを得なかった。当時のミルクの値段はいくらだったか知らないが、かなり高かった筈です。

このような女性教諭の窮状をなんとかしたいという運動が実って、「育児休業法」が成立したのが、確か３０年程前です。教諭だけでなく、一般企業の女性労働者にも適用されています。

私は、自分の子供・孫にも、職場に入ったら、組合に加入し、組合が無ければ、気持ちが通じる人と組合を結成するように、と言っている。これは「言うが易し」で簡単なことではない。息子などは、居ずらくなって転職した。

現在、学校職場で組合に加入する人が居ないとか、分会がない所もあると聞くが、私達のような老人には想像もつかない。いろんな意見を出し合って、それを実現しようとするのが、民主主義の基本なのではないのか。教職員の過労、学級規模も問題にならないのか。アメリカの学級規模は１８人だということをご存じでしょうか。小学校で英語が必修になったことに対する不満・不安など、色々意見が出てくるのではないでしょうか。

表題の「飲水思源」という表現は、元々は「（美味しい）水を飲む者は、その源に思い致せ。」との意味だったが、今では、「井戸水を飲むときは、その井戸を掘った人の苦労を思いなさい。」という意味に変わっている。

先輩（組合）がその井戸を掘ってくれたからこそ、いろんな問題があるけれど、マアーマアーの職場になっているのではないでしょうか。黙っていてはますます環境が悪化するだけです。山大で孫と同級生だった女子生徒が栃木に帰って教員になったが、出勤時刻が６時４５分と聞いて、孫は、「教員に成らなくて良かった」と言っている。

自分の子供に、「教師の仕事は楽しいよ。あなたも教師に成りなさい。」と言えるような職場にしたいと思いませんか。

来年、東北民教研は山形で開催します!!

２０２０年度は、東北民教研がいよいよ山形県を会場に開催されます。民教連に集う教職員ＯＢのみなさん，現役中堅，若手の先生方の支えと力を是非おかし下さい！

実行委員会への積極的な結集を心からお願い申し上げます。　事務局長　東海林　仁